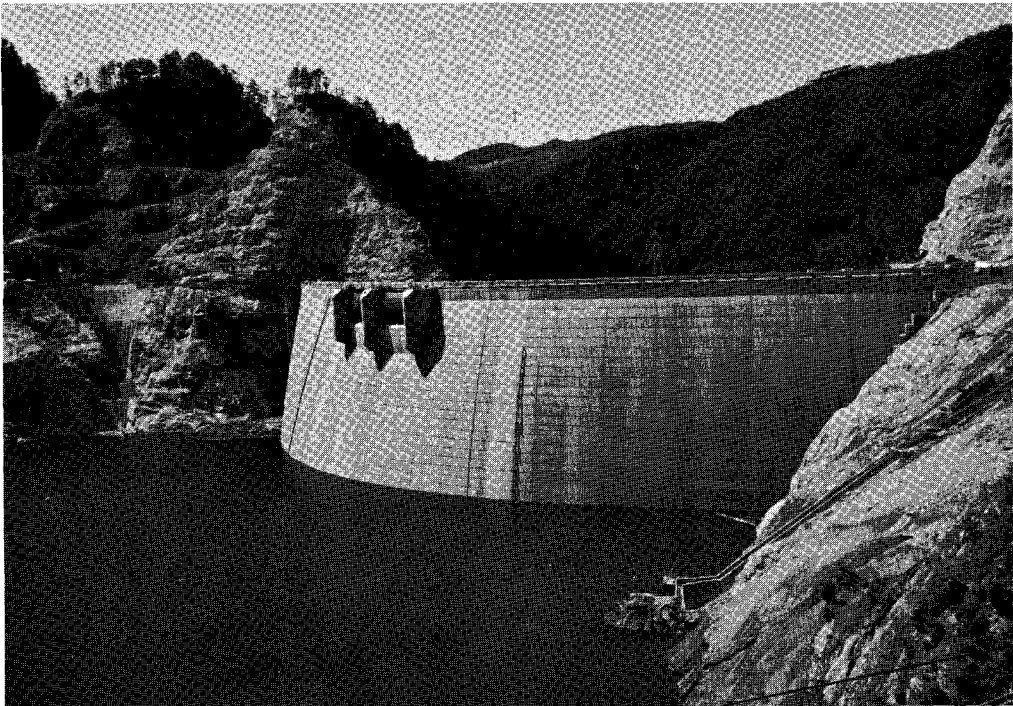


高根第一ダム完成

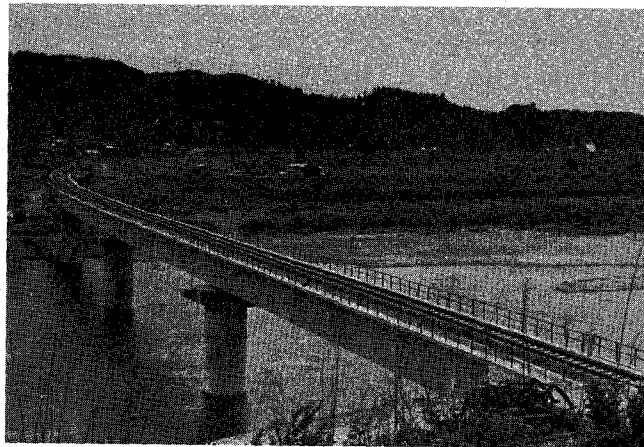
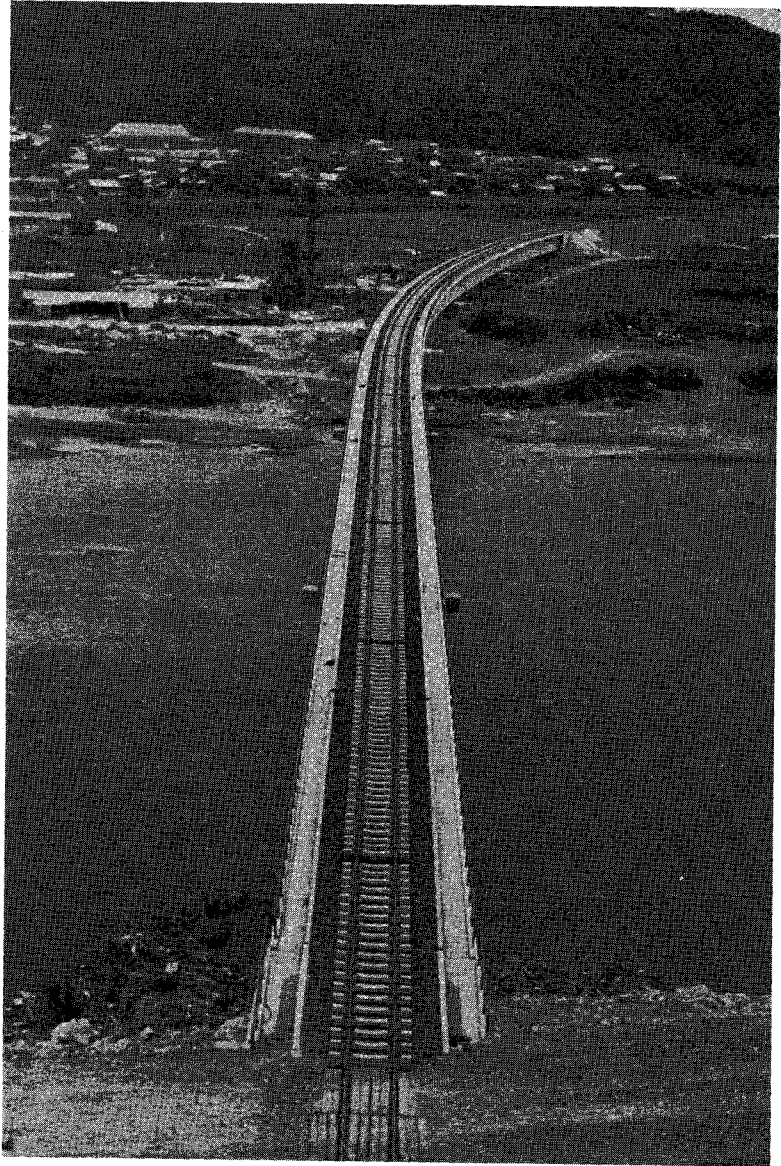
飛騨川 150 万Kw 一貫開発計画の中核をなす高根第一、第二発電所工事のうち、第一ダムが本年 7 月に完成した。すでに第二発電所は本年 3 月に完成しているので、第一ダムの完成により本年 12 月の完工は間近なものとなった。同ダムは中部電力最初のアーチ式ダムで、堤高 133 m、堤頂長 278 m、堤体積 $335 \times 10^3 \text{ m}^3$ である。なお、第一発電所は揚水式発電により最大 34 万Kwの電力を生み出すこととなる。



奥羽本線米代川 橋 梁 完 成

奥羽本線の線増に伴って新設された富根〜一ツ井間・米代川橋梁がこのほど完成した。本橋は、全長 340.7 m を有し、現在線米代川橋梁の下流約 100 m の地点に建設された。

下部構造は、橋台 2 基、橋脚 5 基からなり、1 A〜5 P は井筒、2 A は凝灰岩上の直接基礎である。上部構造は、支間 56.3 m 3 径間連続の単線型 PC 桁 2 連である。上部構造は、水出期および冬の天候を考慮し、高水敷でつくった約 50 t のブロックを H 鋼ステージング上に運搬設置し、目地を現場打ちするというブロック工法を採用した。なお、上部構造の工期は昭和 43 年 11 月から 44 年 6 月であった。本年 9 月に使用開始される本橋は、鉄道橋最初のコンクリート曲り桁であること、急速施工をしたこと等で注目される。



内容・主旨紹介

今月号の掲載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

特集・安全性と土木技術／ 会誌編集委員会

土木学会誌第 54 巻第 8 号, pp. 2~44, 昭和 44 年 8 月, Aug. 1969

社会基盤の建設に大きく関係する土木技術にあって、安全というものをどのように考えるかということは大きな問題であります。工学という立場からのみ安全を追求してゆくことで解決できるものなのか、また技術者自身の人間性に由来するものなのか、今後の研究に待つべきことが多い主題ではあります。今回はこの辺の事情に取材して特集としました。内容は、①土木における“安全性”(丸安隆和)、②土木における安全性の現況(伯野元彦、森 宜制、武部健一・埜克郎・榎藤邦彦・富岡康直、福岡正己、後藤 巖)、③生活の変遷の中における“安全性”へのアプローチの変化(田中 茂)、④座談会・作業現場の安全を語る、の 4 編からなっている。

蛇紋岩トンネルの特性とその設計施工——国鉄神居トンネルの例——／小竹 豊・鈴木

和也・溝畑晴雄

土木学会誌第 54 巻第 8 号, pp. 45~51, 昭和 44 年 8 月, Aug. 1969

最近のトンネル工学の研究傾向として、①軟弱な地山を早く経済的に掘削する方向と、②堅岩からなる地山をいかに機械を用いて早く掘削するか、の 2 方向が認められるが、現在はこちらかといえば後者において進んでいるとされている。本報告は、設計面で問題となる土圧の実体を知るために、膨張性地質として知られている蛇紋岩に施工した例をとり以下の考察を行なったものである。すなわち、土圧測定の結果を基にして、まず蛇紋岩の特性をあげ、次いでその膨張の原因について考察を加え、さらに土圧を推定した後、いかなる設計施工をしたかを記している。

橋梁鋼床板現場溶接の耐疲労性——新十三大橋の場合——／小西一郎・西村 昭・山川純雄・近

藤和夫・加藤隆夫

土木学会誌第 54 巻第 8 号, pp. 52~59, 昭和 44 年 8 月, Aug. 1969

橋梁鋼床板の現場継手部の継手効率を向上し、また、舗装厚の節減やその耐久性を向上させる目的から、最近、継手工法として、現場溶接の適用が試みられている。その場合、鋼床板は主桁作用のほかに直接輪荷重を担い、大きな繰返荷重を受けるので、現場溶接部の信頼性については、変動応力下の耐疲労性に関する裏付けが必要と考えられる。特に裏当金を用いた溶接継手では、その位置で応力集中を生じ疲労強度の低下が懸念される。このような要請に基づき、溶接による各種の継手形式について疲労試験を実施し、鋼床板現場溶接部の強度、耐久性に対して検討を加えた。本論文はこれらの問題について報告したのである。

ガードレール最適規格／ 枝村俊郎・山本俊夫

土木学会誌第 54 巻第 8 号, pp. 60~67, 昭和 44 年 8 月, Aug. 1969

従来ガードレールの設置基準や構造設計に関しては多分に定性的な議論が行なわれてきた。これはガードレールの設置効果および構造として要請される諸機能を定量的に評価することが難かしかったことによる。

本来、ガードレールは国民経済的な見地から交通安全施設投資によって設置されるものであり、この場合投資効果を最大にするように全国的な視野からガードレールの最適規格(各段階規格の剛度および設置箇所)を能率よく決定してやらねばならない。本報告は費用便益比を評価基準にとり、路側用ガードレールの設置効果の定式化を行ない、DP の手法により実用的に最適規格を求めることができることを示した。

海岸保全施設設計便覧・改訂版の発刊にあたって／久宝雅史

土木学会誌第 54 巻第 8 号, pp. 68~70, 昭和 44 年 8 月, Aug. 1969

昭和 32 年に初めて「海岸保全施設設計便覧」が発刊されてから 10 年余を経て、今般改訂版の刊行をみた。本論は、本改訂版の編集に関する諸件、すなわち、編集経過、編集方針、執筆陣、執筆内容等につき、編集小委員長である筆者がまとめた委員会報告である。

鉄筋コンクリート 工場製品設計施工指針 案

B 6・228 650円 会員特価 550円 (〒70)

橋梁，土止壁，基礎杭，まくらぎ，などプレキャストコンクリート製品の応用範囲は広がる一方である。長年にわたる委員会の努力により，完成した最新の指針。条文・解説のほか，関連するJISのすべてを収録。

ディビダーク 工法設計施工指針 案

B 5・88 700円 会員特価 500円 (〒80)

MDC工法設計施工指針 案

B 5・94 700円 会員特価 500円 (〒80)

バウル・レオンハルト 工法設計施工指針 案

B 5・100 700円 会員特価 650円 (〒80)

レオバ工法設計施工指針 案

B 5・84 700円 会員特価 650円 (〒80)

各PC工法を，総則，材料，施工，設計の4編に分け，各条ごとに解説をつけ，各工法に関する詳細な参考事項を巻末に収録したPC工法別の設計・施工のための親切な指針。

土木材料実験指導書 昭和44年版

B 5・230 490円 (〒70)

セメント，骨材，コンクリート，鉄筋，アスファルトの5章に分け，それぞれの試験方法を解説し，巻末には試験結果を整理しうるデータシートを豊富に入れ，品質管理，異形鉄筋などを追加した最新版で学校教材に最適。

土木年鑑 1969

B 5・470 3500円 (〒とも)

口絵写真，論説，展望，工学技術および関連資料，事業，資料などに分類し，それぞれの専門家が執筆したビジュアルな年鑑。土木建設界と関連産業の動向を系統的に眺めうる，わが国唯一の役に立つ年鑑。学会編集・鹿島出版会刊。

橋 1967-1968

A 4・82 1500円 (〒150)

土木学会田中賞の設立を記念して誕生した，わが国橋梁界の歩みを年度ごとに通覧できる美しい橋の年報。受賞論文，受賞作品および応募作品などの紹介に加え，1967年に竣工した主要橋梁の一覧表を収録。一部カラー印刷。

定評ある
土木学会
のトンネル
工学書

トンネル 標準示方書

A 5・36頁
100 円
〒 50 円

トンネル 標準示方書 解説

A5・130頁 600 円
会員特価 500 円
〒 70 円

関門トン ネル工事誌

B 5・692頁
2000 円
会員特価 1500 円
〒 200 円

お申込みは前金で送料
を添えて下さい。

郵便番号 160
東京都新宿区四谷1丁目

土木学会

電話 351-4131(直)
振替 東京 16828

トンネル工学シリーズ 1

第1回トンネル工学シンポジウム

B5判・106ページ 400 円・会員特価
300 円(〒50 円)
トンネル用鋼アーチ支保工の設計施工について/長大トンネルの地質/トンネル工事における災害の実情について/高熱トンネルの施工について/名古屋
市高速度鉄道のシールド工法について/わが国トン
ネル施工のすう勢と問題点について

トンネル工学シリーズ 2

最近のトンネル工学—工事の実例と話題— 〈第2回トンネル工学シンポジウム〉

B5判・136ページ 500 円・会員特価
400 円(〒50 円)
トンネル標準示方書制定について/青函トンネルに
ついて/国鉄新丹那トンネルについて/羽田海底ト
ンネルについて/富士川用水導水トンネル工事につ
いて/AN-FO爆剤とその発破法

トンネル工学シリーズ 3

第3回トンネル工学シンポジウム

B5判・146ページ 1000 円・会員特価
300 円(〒70 円)
トンネル土圧/トンネル土圧の測定方法と現況/ト
ンネル用鋼アーチ支保工の強度について/トンネル
掘削における余掘りの実態について/セグメントの
設計について/栗子トンネルの工事計画と施工実績
について/国鉄親不知トンネルの施工実績について
/青函トンネルにおけるウォールマイヤー式トン
ネル掘削機の掘削試験について/大阪地下鉄複線型
と単線型シールドの実施例と問題点/シールド工法
による駅部の施工計画について/わが国における中
小口径シールド工事の現況について

トンネル工学シリーズ 4

わが国シールド工法の実施例・第1集

B5判・338ページ 2200 円・会員特価
1800 円(〒110 円)
第I部 工事概要/第II部 設計および実績/第III
部 セグメント/第IV部 シールドおよび付属機械
/第V部 工事中機械その他/第VI部 主な図表類
/付録
鉄道および道路・下水道・上水道・電力および通信
・地下道その他に分類 158件を収録

トンネル工学シリーズ 5

第4回トンネル工学シンポジウム〈最新刊〉

B5判・268ページ 1800 円・会員特価
1600 円(〒80 円)
ソ連の地下鉄/アメリカのトンネル工事を視察して
/アメリカにおける山岳トンネル工法/アメリカに
おけるトンネル掘さく機/アメリカにおける都市ト
ンネル/アメリカにおけるコンサルタント業務/ア
メリカにおける請負工事の諸事情について/アメリ
カのトンネル施工に関する新技術/欧州のトンネル
工事を視察して/欧州におけるトンネル請負工事の
諸事情について/欧州における山岳トンネル工法/
欧州におけるトンネル掘進機について/欧州のシ
ールド工事/欧州における地下鉄工事/欧州における
沈埋工事

Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan. 1968

B 5・140 1600円(〒70)

わが国の耐震工学に関する研究は今や世界の注目を集めている。本書は世界地震工学会議を記念して編集され、今回改訂された英文による耐震規定、土質工学会、国際大ダム会議、日本水道協会、運輸省港湾局などが協力した国際版。

Civil Engineering in Japan, 1968

A 4・154 1200円(〒110)

学会編集の英文年報の最新版。昨年で7冊目を刊行。日本の土木技術を広く海外へ紹介するため、豊富な写真、図版を盛り込み、各種工事のトピックス、専門分野の展望などを解説。海外旅行のお土産に好適。バックナンバーあり。

Coastal Engineering in Japan, Vol.11 1968

B 5・190 1500円(〒90)

海岸工学講演会の発表論文の中から、その年度の代表的研究と見られる論文を委員会が選定し、英訳したもの。日本の海岸工学の業績は今や国際的であり、広く海外との技術交流のために刊行している英文刊行物。

土木振動学便覧編集小委員会編

土木技術者のための 振 動 便 覧

A 5・450 2400円 会員特価 2000円(〒110)

基礎、応用の2編に分け、13章に分類した土木に関係するあらゆる振動問題を取上げた便覧。付録として耐震規定、耐風設計規定などを付す。機械、建築など他分野からも評価が高い。研究者、設計者、実務者むき。

測定法編集小委員会編

建設技術者のための 測 定 法

A 5・422 2000円 会員特価 1800円(〒100)

土木学会誌に講座として連載されていたものを大幅に加筆、項目追加を行なったユニークな測定に関する便覧。建築、気象関係者などから注目を集む。9章に分け詳述す。大学教科書、設計者、研究者、実務者むき。

岩盤力学委員会編集小委員会編

土木技術者のための 岩 盤 力 学

B 5・490 3600円 会員特価 3000円(〒130)

土木地質学、岩石の力学的性質、岩盤試験、強度・変形に対する理論的あるいは模型実験的解析法、透水の影響、斜面安定、掘削などの解説のほか工事例を多数収録す。研究者、設計者、実務者むきの岩盤研究への指針。

土木製図基準改訂委員会編

土木製図基準

〈付・製図のかき方〉

A 4・160 色刷4 折込

付図20枚 上製豪華本

定価 1300円 会員特価 1100円

(〒130)

第1編 総則 第2編 鋼構造物 第3編 コンクリート構造物 第4編 測量その他・条文および解説つき

付録・製図のかき方/製図に関係ある規格/参考文献/添付図面・橋梁(一般図・プレートガーダー・合成桁・トラス・ラーメン・箱桁・T桁・橋脚・橋台・PC橋) 鉄道・道路・河川・ダム・下水道などの計画図。

〒160 新宿区四谷1丁目

土木学会 電話 03(351)4131
振替東京 16828番

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	8月27日(水)	Rouse 教授特別講演会	土木学会	8号会告4頁参照
	8月28日(木)	第2回土木計画学講習会	土木学会	7号会告4 "
	8月29日(金)			
	9月4日(木)	同	大 阪 市	7号会告4 "
	9月5日(金)			
	9月26日(金)	全国大会・第24回年次学術講演会	東 京	8号会告2 "
9月27日(日)				
	11月26日(水)	第5回トンネル工学に関するシンポジウム	東 京	8号会告3 "
	11月27日(木)			
	12月11日(木)	第16回海岸工学講演会	大 阪 市	8号会告4 "
	12月12日(金)			
北 海 道 支 部	8月22日(金)	夏季見学会	室 蘭 地 区	7号会告8 "
	9月4日(木)	第2回講演会	札 幌 市 区	8号会告7 "
	9月19日(金)	秋季見学会	釧 路 地 区	8号会告7 "
	10月17日(金)	同	札 幌 地 区	8号会告7 "
中 部 支 部	8月28日(木)	第1回技術講座	名 古 屋 市	7号会告8 "
	9月19日(金)	第2回見学会	三 重 県	8号会告8 "
関 西 支 部	8月30日(土)	プレートガーダーの座屈に関する研究発表会	大 阪 市	7号会告9 "
	9月19日(金)	第2回見学会	同	8号会告8 "
西 部 支 部	8月26日(火)	映 画 会 夏 期 講 習 会 見 学 会	熊 本 県 同 同	7号会告10 "
	8月27日(水)			7号会告10 "
	8月27日(水)			7号会告10 "
	8月28日(木)			7号会告10 "
そ の 他	8月19日(火)	応力測定に関する講習会	東 京	6号会告7 "
	8月22日(金)			
	9月1日(月)	第13回材料研究連合講演会	東 京	7号会告6 "
	9月2日(火)			
	9月3日(水)	コンクリート用化学混和剤に関する講習会	東 京 外	7号会告7 "
	9月4日(木)			
	9月8日(月)			
	9月9日(火)			
	9月11日(木)			
	9月19日(金)			
	10月15日(水)	日本工学会第26回見学会	東 京	7号会告5 "
9月18日(木)				
9月8日(月)				
9月8日(月)	建設省認定第8回宅地造成技術講習会	東 京 名 古 屋	8号会告6 "	
9月13日(土)				
10月3日(金)	第19回応用力学連合講演会	東 京	8号会告6 "	
10月4日(土)				
お 知 ら せ	■論文報告集投稿要項の一部改正について			8号会告4 "
	■欧文論文集の刊行について			8号会告4 "
	■第6回衛生工学研究討論会論文募集			8号会告5 "
	■構造物またはその構成要素の終局強度に関する研究発表論文募集			8号会告5 "
	■第16回風に関するシンポジウム講演募集			8号会告5 "
	■研究発表会論文・報文募集(北海道支部)			8号会告7 "
	■事務局職員募集			8号会告8 "
■国際会議ニュース			8号会告9 "	

映画試写会開催について

土木学会視聴覚教育委員会では、毎月第2土曜日に映画試写会を行なっておりますので、多数お問い合わせの上ご観賞下さいますようご案内致します。

記

1. 場 所：土木図書講堂(東京都新宿区四谷一丁目 国電・地下鉄四ツ谷駅下車)
2. 日 時：毎月第2土曜日 14.00~17.00 9月は13日(土)です。
3. 上映映画：「青い城壁」「津波との闘い」「大いなる防波堤」等港湾関係の映画を予定しております。
4. 参加費：無料、土木関係以外の方も歓迎致します。

土木学会 昭和 44 年度全国大会

◀ 9 月 26 日 (金) ~ 30 日 (日) ▶

(1) 特別講演会 (会場: 砂防ホール)

9 月 26 日 (金)	9.30~10.30	土木技術者の使命	土木学会長 柳 沢 米 吉
9 月 26 日 (金)	10.30~11.30	地中における地震動	東大教授 岡 本 舜 三
9 月 26 日 (金)	11.30~12.30	建設機械化の推移と今後の動向	日本国土開発 (株) 伊 丹 康 夫

(2) 第 24 回年次学術講演会

① 部門講演 (会場: 麴町会館地階地財ホール)

9 月 26 日 (金)	13.30~14.30	第 I 部門・最近の鋼材の諸問題について	東大教授 奥 村 敏 恵
9 月 27 日 (土)	9.30~10.30	第 II 部門・下水汚泥の処理・処分の現状と問題点	北大教授 寺 島 重 雄
9 月 27 日 (土)	13.30~14.30	第 III 部門・土質力学とレオロジー	東工大教授 山 口 柏 樹
9 月 28 日 (日)	9.30~10.30	第 IV 部門・近代写真測量の発展とその土木工学における役割	東大教授 丸 安 隆 和

② 研究発表

- 第 I 部門 (会場: 日本都市センター)
- 第 II 部門 (会場: 都道府県会館および砂防会館)
- 第 III 部門 (会場: 全共連ビル)
- 第 IV 部門 (会場: 麴町会館)

9 月 26 日 (金)	13.30~17.30	} 講演数 598 題
9 月 27 日 (土)	9.30~17.30	
9 月 28 日 (日)	9.30~17.30	

プログラム: 当日来聴者に配布 (無料)

(3) 懇 親 会 (会場: ホテルニュージャパン)

9 月 27 日 (土) 18.00~20.00 立食パーティー

(4) 見 学 会

第 1 班	中央道富士五湖方面	1 泊 2 日	} 9 月 29 日 (月) 8.45 東京駅集合 日 帰 り
第 2 班	日光金精峠方面	1 泊 2 日	
第 3 班	東京都内	日 帰 り	

(5) 第 24 回年次学術講演会講演概要集

講演会に出席できない方でも、ある程度内容がわかるように、B5 判にオフセット印刷した講演概要を、4 分冊として頒布いたします。

第 1 部: 応用力学・構造力学・橋梁など	170 題	約 500 頁	定価 900 円	〒 100 円
第 2 部: 水理・水文・河川・港湾・海岸・衛生など	161 題	約 440 頁	定価 800 円	〒 100 円
第 3 部: 土質・基礎・土木機械・施工・トンネルなど	131 題	約 400 頁	定価 700 円	〒 100 円
第 4 部: 道路・鉄道・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・ 土木材料・都市計画・交通・測量など	140 題	約 350 頁	定価 600 円	〒 100 円

購入申込: 当日講演会場でも販売しますが、数量に制限がありますので、なるべく早目にお申込み下さい。お申込みは、代金・送料を添えて下記にて現金書留でお送り下さい。

郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会関東支部 電話 (03) 351-4133

—なお、7 月号会告にありました PR 映画会は、会場・映画選定等の都合で取止めのやむなきにいたしました。あしからずご了承下さい。—

第5回トンネル工学に関するシンポジウム ◀ 11月26日(水)~27日(木) ▶

土木学会トンネル工学委員会では今秋完成を目前にトンネル標準示方書の改訂、およびシールド工法指針の制定に意努力を重ねており、これを機会に下記により第5回トンネル工学に関するシンポジウムを開催することに決定致しました。

このシンポジウムには、これらの説明会の他、現在、わが国で設計・施工されたトンネル工事の実情の紹介も加え実施いたします。

当シンポジウムは、今後わが国における斯界進展のため寄与するところ大であると思われまますので、関係方面の多くの研究者、技術者のご参加を希望します。

なお、詳細については次号会告にてお知らせ致します。

1. 期 日：1969年11月26日(水)、27日(木)の2日間
2. 会 場：財団法人社会文化会館(地下鉄：「国会議事堂前」下車、TEL(580)1171)
3. 参加費：未 定
4. テキスト：トンネル標準示方書解説(改訂版)、シールド工法指針、トンネル工学シリーズ6
5. 題目・講師および日程：(○印は講演者、講演時間は質疑応答の時間を含む)

第1日：11月26日(水)

9.30~9.40(1)	開会挨拶	トンネル工学委員会委員長 藤井 松太郎
9.40~9.50(2)	示方書改訂の主旨について	株式会社大林組 坂本 貞雄
9.50~10.20(3)	調査編の改訂について	東京大学生産技術研究所 丸安 隆和 建設省土木研究所 ○芥 真知
10.20~10.50(4)	設計編の改訂について	建設省土木研究所千葉支所 伊吹山 四郎
10.50~11.20(5)	施工編の改訂について	日本鉄道建設公団 足立 貞彦
11.20~12.00(6)	六甲トンネルの破砕帯突破について	国鉄山陽新幹線工事局 高山 昭
12.00~13.00	昼食・休憩	
13.00~13.40(7)	隧道掘さくに伴う地表沈下の測定例について	国鉄建設局線増課 ○島田 隆夫 国鉄鉄道技術研究所 飯 塚 全
13.40~14.20(8)	牧の原地すべり地区のトンネル施工について	建設省中部地方建設局 金井 弥太郎 同 久保 夫 同 ○前田 武雄
14.20~15.00(9)	紅葉山線新登川トンネルの蛇紋岩区間の施工法と膨張土圧の測定結果について	日本鉄道建設公団 足立 貞彦 同 札幌支社 重松 廉 大成建設(株)技術研究所 ○水出 廉
15.00~15.15	休 憩	
15.15~16.30(10)	討論会；「わが国のトンネルボーリングマシンの現状」	

第2日：11月27日(木)

9.30~9.40(11)	シールド工法指針作成の経緯について	帝都高速度交通営団 西嶋 国造
9.40~10.10(12)	第1編「総論」について	東京都交通局 ○速藤 浩三 東京電力株式会社 吉川 新吉
10.10~10.40(13)	第2編「覆工およびセメント」について	東京都立大学工学部 ○山本 稔智 早稲田大学理工学部 村上 博
10.40~11.10(14)	第3編「シールド」について	国鉄東京第1工事局 ○小林 正一 三菱重工業株式会社 小竹 秀雄
11.10~11.40(15)	第4編「施工および施工設備」について	帝都高速度交通営団 ○西嶋 国造 株式会社熊谷組 田中 壬子也
11.40~13.00	昼食・休憩	
13.00~13.40(16)	羽田トンネルの沈埋工事について	日本鉄道建設公団 大平 拓也
13.40~14.20(17)	大阪地下鉄の沈埋工事について	大阪市交通局 三好 迪男
14.20~15.00(18)	近鉄難波線の大型機械化シールドの施工例について	近畿日本鉄道株式会社 薮 哲司
15.00~15.15	休 憩	
15.15~16.30(19)	討論会；「シールド工法による地下駅の設計・施工」	
16.30~16.40(20)	閉会挨拶	トンネル工学委員会幹事長 加納 俊二

論文報告集投稿要項の一部改正について

論文集編集委員会では論文報告集のあり方について種々検討を行なっておりますが、本年より従来の欧文要旨を発展的に解消し、欧文論文集を刊行することになりましたので、昭和 43 年 5 月発表（学会誌第 53 巻 5 号 4 ページ参照）の投稿要項の「6. 要旨について：b) 欧文要旨 ②③④」を全文削除します。すなわち、今後投稿される場合は欧文題目のみで、欧文要旨は必要としません。なお、新しい論文報告集の投稿要項については現在協議中ですので近くお知らせする予定です。

欧文論文集 (Transactions) の刊行について

土木学会論文集編集委員会では、先に会告でお知らせ致しましたように論文集の名称を第 161 号より論文報告集 (Proceedings) と改めました。この名称変更に伴い委員会では論文報告集のあり方について検討を行なうと同時に欧文論文集のあり方についても欧文論文集編集小委員会を組織し種々協議を重ねて参りました結果、わが国の学術論文の海外紹介を目的として、とりあえず今年度は論文報告集に掲載された論文・研究ノートを対象として欧文論文集を刊行することになりましたのでお知らせ致します。

初年度の内容としては、1) フルペーパーの欧文訳したものとしてか、あるいは 2) 100~250 ワードにまとめた欧文要旨としてのいずれかとして掲載するものとします。

なお、研究ノートについては原則としての 2) 形で掲載することとします。

頒布方法・価格などについては現在検討中ですが欧文論文集購読ご希望の方は欧文論文集編集小委員会までがきでお知らせ下さい。

第 16 回海岸工学講演会

◀ 12 月 11 日 (木)~12 日 (金) ▶

第 16 回海岸工学講演会を下記により開催することになりましたので、講演を申し込まれた方は期日までに原稿をご提出下さい。

1. 開催時期：1969 年 12 月 11 日 (木)~12 日 (金)
2. 場 所：大阪科学技術センター (大阪市)
3. 講演原稿締切：1969 年 8 月 15 日 (金)
4. 原稿提出について：“原稿執筆要項”に基づきご執筆下さい。
5. 原稿提出先および連絡先：

郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会海岸工学委員会 電話 (03) 351-5138 (代表)

Rouse 教授特別講演会

◀ 8 月 27 日 (水) 15.30~16.30 ▶

Hunter Rouse 教授特別講演会を下記により開催いたしますので、お誘い合わせの上多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 日 時：1969 年 8 月 27 日 (水) 15.30~16.30
2. 会 場：土木学会土木図書館講堂
3. 主 催：土木学会水理委員会
4. 題 目：The Bernoulli Theorem

第6回衛生工学研究討論会論文募集

土木学会衛生工学委員会は、下記の予定で研究討論会を実施しますので、論文提出希望者はご応募下さいませようご案内いたします。

記

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1970年1月下旬
3. 場 所：土木学会図書館講堂（新宿区四谷1丁目無番地）
4. 論文内容：本年度は特別に課題を決めず自由課題とします。
5. 申込方法：10月末までに講演原稿を土木学会衛生工学委員会までご提出下さい。なお、原稿は学会指定のオフセット用原稿用紙（申込み次第送付）を使用下さい。原稿枚数は8枚までとし、期日以後は受付をお断りしますのでご注意下さい。
6. 申 込 先：土木学会衛生工学委員会（新宿区四谷1丁目）
7. 採 否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。

構造物またはその構成要素の終局強度に関する研究発表会論文募集

（第16回橋梁・構造工学研究発表会）

今年度は下記より、標題の研究発表会を開催いたします。論文提出希望者はふるってご応募下さい。

1. 期 日：1969年12月5日（金）
2. 共 催：日本学術会議構造研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂
- (1) 論文内容：鋼、鉄筋コンクリート、プレストレストコンクリートあるいは鋼とコンクリートの合成された構造物またはこれらの構成要素の終局強度、耐荷性状に関する独創的な実験的、理論的研究を対象とする。
- (2) 申込方法：8月30日までに論文題目、発表者氏名、勤務先および100字以内の内容梗概をそえて所属学会に申込んで下さい。採否は学術会議の上記研究連絡委員会におまかせ願います。採用のうちは10月15日までに講演原稿の提出方をお願いいたします。

第16回風に関するシンポジウム講演募集

1. 開催時期：1969年11月
2. 会 場：未 定（東京都）
3. 共 催 学 会：地震学会・土木学会（幹事学会）・日本海洋学会・日本気象学会・日本建築学会・日本航空宇宙学会・日本地理学会・日本農業気象学会・日本林学会
4. 講演申込締切期日：1969年9月10日（水）
5. 講演申込方法：9月10日までに題目、講演者氏名（連名の場合は登壇者に○印をつける）、勤務先、連絡先、スライド、図面等の有無を明記し、土木学会（幹事学会）または所属学会あてお申込み下さい。
6. 講演時間：1講演15分～20分程度の予定です。
7. そ の 他：シンポジウムの前刷集は作成致しませんのでご了承下さい。なお、講演者が各自プリントのうえ、会場にて参加者へ配布されることは差しつかえありません。

第10回構造の軽量化に関するシンポジウム講演募集

1. 共 催：強化プラスチック技術協会・軽金属協会・高分子学会・自動車技術協会・日本造船学会・土木学会・日本機械学会・日本建築学会・日本航空宇宙学会
2. 日 時：1969年11月28日（金）
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂（東京都新宿区四谷1丁目）
4. 趣 旨：最近、強化プラスチック・軽金属・高張力鋼・サンドイッチ材および各種複合材など軽量化用構造材料の開発がすすみ、これに応じて土木・建築・車両・船舶・航空（宙）機および各種産業機械の構造法・構造工学がかなりの変革を

とげつつあります。ここに構造の軽量化という同一テーマのもとで、9学協会の各専門分野における研究成果を交換しあうことは誠に有意義であると思います。ふるってお申込み下さい。

5. 講演申込法：

1. 参加学協会所属の会員は、当該学・協会を通じて申し込む。
2. 講演内容はすでに各学・協会で発表されたものでもよいが、最近の研究に属するものが望ましい。
3. 講演時間は 20 分ないし 30 分間とする。
4. 申込用紙には、つぎの事項を必ず記載すること。
a 講演題目、b 梗概(約 100 字)、c 講演者(連名の場合は登壇者に○印をつける)の氏名・勤務先・通信先・学(協)会員資格・年齢、d スライド、(35 ミリ)の有無。
5. 申 込 期 日：1969 年 8 月 30 日(土)
6. 前刷原稿締切日：1969 年 10 月 15 日(水)
7. 前 刷 原 稿：前刷はゼロックス印刷するため、原稿は所定の原稿用紙(1443 字詰)4 枚以内(図表を含む写真不可)とする。講演者には上記の原稿用紙を送付します。

第 19 回応用力学連合講演会

◀ 10 月 3 日(金)~4 日(土) ▶

例年のとおり、標記の講演会が関係 9 団体の共催によって、下記要領で開催されます。プログラムをご希望の方は、土木学会総務課あてはがきでお申込み下さい。

1. 場 所：東京都勤労福祉会館(東京都中央区新富町 1-1-5)
2. 講 演：77 題
3. シンポジウム：13 題
4. 講演論文抄録：1300 円(予約申込に限り送料学会負担)代金を添えて 9 月 20 日までに土木学会総務課あてお申込み下さい。

建設省認定第 8 回宅地造成技術講習会

◀ 9 月 8 日(月)~13 日(土) ▶

1. 主 催：日本宅地開発協会・全国宅地造成協会
2. 協 賛：土木学会・日本建築士会連合会・日本建築学会
3. 後 援：建設省・東京都・愛知県・名古屋市・東海宅地造成協会
4. 開催日時：
講習会：1969 年 9 月 8 日(月)~9 月 12 日(金)
認定審査：1969 年 9 月 13 日(土)
5. 講習会場および審査会場：
講習会 東京会場：発明会館ホール(東京都港区芝西久保明舟町 17)
名古屋会場：愛知県市町村会館(名古屋市中区三ノ丸 3 番 2 号)
考 査 東京会場：農林年金会館(東京都港区芝西久保巴町 36-1)
名古屋会場：東海建築文化センター(名古屋市中区南武平町 1-12)
6. 受講料：7000 円(テキスト代を含む) } 申込みとともに納入
7. 受験料：1500 円
8. 申込期日：1969 年 8 月 1 日~8 月 25 日(定員は各会場とも 300 名)
9. 申 込 先：
東京会場：社団法人 日本宅地開発協会(東京都芝西久保明舟町 19・住宅会館・電(03)501-2994・3876)
名古屋会場：社団法人 東海宅地造成協会(名古屋市中区南武平町 1-12・東海建築文化センター・電(052)251-8920)
10. その他：申込用紙、その他詳細は上記申込先へご連絡下さい。

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南 1 条西 2 丁目・勸銀ビル 5 階 電話 0122-25-7038)

(1) 年次 研究発表会論文・報文募集

標記の原稿をつぎの要領で募集いたします。

1. 発 表 : 1970 年 2 月 27 日 (金) 札幌市民会館で口頭発表のほか、事前に“論文集第 26 号”として本印刷刊行配付する。
2. 内 容 : 土木工学・土木技術・工事報告文など。
3. 応募方法 : 支部事務局へ文書または電話でお申込みのこと。申込みにより所定の原稿用紙と起稿要領などを急送します。
4. 応募資格 : 北海道支部所属の会員を原則とします。
5. 申込締切 : 10 月末日
6. 原稿締切 : 11 月 20 日厳守; 締切期日を過ぎたものは、印刷日程の都合上受理できませんのでご承知おき下さい。
7. 支部奨励賞の授与 : 応募論文は、選考のうえ、賞状、賞金、メダルを支部総会で表彰授与される。

(2) この時代における土木技術者の使命——講演会 (第 2 回)

◀ 9 月 4 日 (木) ▶

1. 期 日 : 1969 年 9 月 4 日 (木) 13.00~
2. 会 場 : 札幌市民婦人会館 3 階ホール
3. 講 演 :

<ol style="list-style-type: none"> ① 13.05~14.25 揚水発電と原子力発電建設の展望と問題 ② 14.30~15.50 変動する社会の展望と土木技術者の使命 	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">北海道電力(株) 常務取締役</td> <td style="width: 50%;">大 橋 康 次 (前支部長)</td> </tr> <tr> <td>富士製鉄(株) 監査役</td> <td>堀 正 巳</td> </tr> </table>	北海道電力(株) 常務取締役	大 橋 康 次 (前支部長)	富士製鉄(株) 監査役	堀 正 巳
北海道電力(株) 常務取締役	大 橋 康 次 (前支部長)				
富士製鉄(株) 監査役	堀 正 巳				

(3) 秋 季 見 学 会

I. 釧路 (阿寒) 地区

1. 期 日 : 1969 年 9 月 19 日 (金) 日帰り
2. 集 合 : 釧路駅前 出発 9 時
3. 見学コース : 釧路鶴居手子屈 (北斗地区道路改良工事)~摩周湖~(美幌峠道路改良工事)~阿寒湖~(清水沢橋工事)~釧路帰着 17 時

II. 札幌 (支笏湖・中山峠) 地区

1. 期 日 : 1969 年 10 月 17 日 (金) 日帰り
2. 集 合 : 札幌大通テレビ塔下 同出発 9 時
3. 見学コース : 恵庭岳オリンピック施設工事~支笏湖畔~美笛トンネル~喜茂刷~中山峠 (道路改良工事)~定山溪 (豊平峽ダム)~札幌帰着 17 時

◎ 参加要領

- ① 参加料 : 地区ごとに (昼食付) 会員 700 円, 学生会員 500 円, 一般 1000 円, ただしお申込みと同時に前納
- ② 定 員 : 各地区 50 名 申込順に締切
- ③ 乗 物 : 観光バス
- ④ 申 込 先 : 土木学会北海道支部事務局 (札幌市南 1 条西 2 丁目 勸銀ビル 5 階 電話 25-7038)
- ⑤ 締 切 期 日 : 開催日の各 3 日前
- ⑥ 主 催 : 土木学会北海道支部・土質工学会北海道支部

中部支部行事案内 (郵便番号 450 名古屋市中村区笹島町 1-18 名古屋鉄道管理局施設部)
工事第 1 課内 電話 052-551-8111 内線 266

(1) 昭和 44 年度第 2 回見学会

◀ 9 月 19 日 (金) ▶

1. 日 時: 1969 年 9 月 19 日 (金)
2. 見 学 先: 三重県君ヶ野ダム (雲出川総合開発ダム) 築造工事
ダム諸元 形式 越流型直線重力式コンクリートダム (堤高 73 m/堤頂長 325 m/堤体積 356 000 m³)
3. 集 合 場 所: 国鉄紀勢本線津駅前 10.00
4. 行 程: 10.10 津駅前出発~11.40 君ヶ野ダム現場着~昼食・工事概要説明・現場見学 (約 2 時間 50 分)~14.30 君ヶ野ダム現場出発~16.00 津駅前解散
5. 定 員: 50 名
6. 会 費: 300 円
7. 申 込 方 法: 9 月 6 日 (土) までに中部支部へ会費をそろえてお申込み下さい。

関西支部行事案内 (郵便番号 537 大阪市東成区中道元町 1 丁目 149 番地)
電話 06-981-2510, 振替口座 大阪 82599 番

(1) 第 2 回見学会 (日本万国博会場建設工事見学会)

◀ 9 月 19 日 (金) ▶

1. 期 日: 1969 年 9 月 19 日 (金)
2. 見 学 先: 日本万国博覧会協会万博会場建設工事
3. 集 合: 9 月 19 日 12 時 45 分までに阪神電鉄本社前 (大阪中央郵便局西入口)
4. 行 程: 13.00 阪神電鉄本社前出発——14.00 日本万国博覧会協会着, 説明, 見学——15.30 発——16.30 国鉄大阪駅着解散
5. 参 加 費: 400 円
6. 定 員: 100 名 (先着順)
7. 申 込 期 限: 1969 年 9 月 4 日 (木)
8. 申 込 方 法: 参加希望者は勤務先, 連絡先および氏名を明記 (様式随意) のうえ参加費 400 円を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送ります。

本会事務局職員募集について

欠員補充のため下記によって職員を採用したいので, 希望者をご推薦下さい。

1. 採用条件: 女子 2 人 (高校卒以上, 年令 18 才~23 才)
男子 1 人 (旧中卒以上, 年令 50 才~55 才)
2. 待 遇: 女子 国家公務員に準ずる
男子 嘱託, 4 万円程度
4. 連 絡 先: 土木学会専務理事にご連絡下さい。

(1) 「構造物の安全性と設計方法の概要について」のシンポジウム

期 日：1969年9月11日～12日

開催地：ロンドン

詳細問合せ先：

Secretariat of IABSE, Swiss Federal Institute of Technology, CH-8006 Zurich Switzerland

(2) IAHR シンポジウム

“Hydraulic Machinery and Equipment in the Atomic Age”

(原子力時代における水力機構と装置)

期 日：1970年8月23日～26日

開催地：スウェーデンのストックホルム

Registration date (登録日) : 1970年8月23日

Technical Sessions (専門部会) : 1970年8月24日～26日

テーマ：“Hydraulic Machinery and Equipment in Atomic Age”

タイトル中の“in the Atomic Age”は、このシンポジウムは、ごく最近の研究および開発に焦点を絞ることを示す。詳細なプログラムは1970年初頭に配布されるので、シンポジウムのSecretaryまで間合わせることを。住所は下記のとおり。

Mr. P.G. Fällström
Secretary of IAHR Symposium 1970
c/o Swedish State Power Board
S-16287 VÄLLINGBY, Sweden

論文の申し込み：

論文提出希望者はタイトルとその論文の要旨を(英語または仏語で)1969年9月15日までに提出すること。

要旨はタイプ打ちで2ページ(図表を含む)

採用通知：1969年11月15日まで

採用されたら、1970年1月31日までに、英語または仏語で本文、要旨を英仏両語でつけ加えて、論文を提出
研究旅行：最終プログラムおよび研究旅行の詳細費用は1970年初めに配布

(3) 第5回国際水質汚濁研究会議について

標記会議が1970年7月27日～31日、米国サンフランシスコ市ブルックスホールにおいて開催されますが、その日程(予定)がつぎのとおりになりましたのでお知らせいたします。

らさせていただきます。

1969年9月19日 応募論文締切り/9月30日 論文選考委員に発送/10月31日 論文選考委員結果報告

1970年4月25日 会議参加予備登録締切り(1人10ドル)/5月10日 予備登録者に印刷論文発送/6月10日/予備登録者論文受領/7月27日～31日 会議(参加費1人50ドル)/8月2日～3日 ハワイにおける会議(Post Conference Session)

論文作成要領、採用論文数等の詳細については、土木学会事業課にご照会下さい。

(4) 第6回カナダ岩の力学シンポジウム

期 日：1970年5月28日～30日

開催地：Ecole Polytechnique (Universite de Montréal), Québec, Canada.

論文提出方法：300語以内のSummaryを1969年11月以前に提出

提出先：Prof. B. Ladanyi, Simposium Chairman, Department of Mining Engineering, Ecole Polytechnique, P.O. BOX 501, Snowdon, Montréal 248, Qvé, Canada

(5) 4th Scientific-Technological Conference “Metal Construction”

上記の会議が、“Development Trends in Metal Construction”を主題にして、つぎのように開かれます。

期 日：1970年6月下旬

開催地：ワルシャワ

主催者：Engineering Committee of Poland Academy of Sciences

Committee of Metal Constructions of Poland Association of Building Engineers and Technicians

この会議に関心をお待ちの方は、名古屋大学工学部成岡昌夫教授あて照会下さい。

(6) コンクリートのクリープ、収縮、および温度変化に関するシンポジウム

IABSE主催で上記のシンポジウムがつぎのように開催されます。

期 日：1970年9月14～19日

連絡先: Secretary of IABSE, "Symposium Madrid"

ETH, CH-8006, Zürich (Switzerland)

テーマ:

Measurements and observations

- (1) field observations
- (2) comparison of field results with laboratory results
- (3) failures due to creep, shrinkage and temperature changes

Design Provisions

- (1) bridge
- (2) buildings (high rise; industrial)

Practical methods of analysis

- (1) stresses
- (2) deflections

会議用語: 英, 仏, スペイン

論文投稿期限: 1969年12月31日

(7) 国際地球化学宇宙化学協会 (IAGC); 水地球化学および生物地球化学シンポジウム

期日: 1970年9月7日(月)から12日(土)まで
開催地: 東京都 日本都市センター

IAGCの水地球化学および生物地球化学のシンポジウムが、下記により東京でひらかれます。暫定プログラムは下記のとおりで、招待発表を主とし参加発表をくわえます。シンポジウムの前また後に同位体地球化学に関するセミナーが2日間ひらかれます(プログラムは未定)。

シンポジウムの参加費は7200円を予定しています。

このシンポジウムの前に国際鉱物学連合(IMA)第7回総会と、国際鉱床学連合(IAGOD)第3回総会が、8月24日から9月6日まで、東京と京都でひらかれます。また、IAGCシンポジウムに引きつづき、国際海洋科学協会(IAPSO)第15回総会、国際学術連合会議(ICSU)、海洋科学委員会(SCOR)第10回総会、国際海洋生物学協会(IABO)総会が9月14日から24日まで東京でひらかれます。IAGCとIAPSOの合同シンポジウムが9月14日と15日にひらかれる予定です。

IAGCシンポジウムについてのお問い合わせは、1970・IAGCシンポジウム準備委員会委員長 三宅泰雄氏(東京都杉並区高円寺北4-35, 気象研究所内)宛におねがいします。

注: このシンポジウムについての今後のインフォメーションをお受けになりたい方は、ハガキにご記入のうえ上記へお送り下さい。

IAGC 水地球化学と生物地球化学シンポジウム 暫定プログラム

水地球化学

1. 地球進化と水
2. 熱水の起原, 本質および熱水反応過程
3. 水圏の放射化学(年代決定をふくむ)
4. 水環境における酸化, 還元, 沈澱反応
自生鉱物の性質と堆積過程
5. 大気-水圏の相互作用
6. 極地の水地球化学

生物地球化学

1. 窒素と炭素のサイクル
2. 生命の起原, 古生物地球化学
3. 天然ガス, 石油, 石炭および生物起原鉱物の生物地球化学的考察
4. 人類活動の生物地球化学的影響
5. 土壌の生物地球化学
6. 水圏の生物地球化学

(8) 5th National ASCE Structural Division Conference on Electronic Computation

上記の会議がつぎのように開かれます。

1. 期日: 1970年8月31日~9月2日

2. 場所: Purdue University (Lafayette, Indiana)

3. LIST OF SUGGESTED TOPIC AREAS

I. New or Improved Design Techniques

- A. Use of Computers in Multi-Disciplinary Design Projects
- B. Design Automation
- C. Use of Computers on Special Design Projects
- D. Analysis Procedures to Enable Efficient Redesign

II. Computer Systems Improvements

- A. Storage and Retrieval of Engineering Information
- B. Automatic Drafting
- C. Man-Machine Communication
- D. Reliability of Computer Results; Accuracy Considerations, Built-in-Checks, and Review for Approval

III. Professional Problems

- A. Comparative Assessment of Computer Costs Relative to Alternative Costs
- B. Effective Use of Computing Facilities Through Multi-Programming and Time Sharing
- C. Legal Problems Resulting From Computer Use in Design
- D. Impact of Computers on Design Office Project Management

4. 論文申込概要提出: 1969年9月15日

論文提出 1970年2月28日

論文は Journal of ST Division に特集号として載る予定

建設技術者のための測定法

新刊

土木学会誌に連載された講座「測定」を
読者の要望にこたえて全面的に改筆・加
筆した決定版です。

技術革新のいちじるしい現代では、あら
ゆる現象を定量的にとらえて技術を推進
してゆかなければなりません。

本書は建設工事に従事するすべての技術
者に必須な知識である「測定」に関する
初めてのユニークな単行本です。

目次

- 第1章 総説
- 第2章 測定器械 2.1 流体に関する測定器 2.2
固体に対する測定器 2.3 電気変換測定装置
2.4 電波・レーザー光および音波利用測定機
2.5 記録装置
- 第3章 測定値の処理法 3.1 データのまとめ 3.2
母集団と標本 3.3 確率分布 3.4 標本分
布 3.5 推定 3.6 検定 3.7 実験式の
あてはめ 3.8 周期的変動をする測定値の処
理 3.9 現象解析上の統計処理
- 第4章 気象に関する測定 4.1 気圧に関する測定
4.2 気温に関する測定 4.3 湿度に関する
測定 4.4 蒸発に関する測定 4.5 霧に関
する測定 4.6 雨に関する測定 4.7 雪に
関する測定 4.8 風に関する測定
- 第5章 地盤に関する測定 5.1 土質に関する測定
5.2 岩盤に関する測定 5.3 地すべり、砂
防に関する測定
- 第6章 水に関する測定 6.1 流水に関する測定 6.2
河川に関する測定 6.3 海岸に関する測定
- 第7章 構造物に関する測定 7.1 応力および振動の
測定 7.2 ダムに関する測定 7.3 橋梁(上
部工)に関する測定 7.4 橋梁(下部工)に
関する測定 7.5 トンネルに関する測定
- 第8章 交通運輸に関する測定 8.1 道路に関する測
定 8.2 鉄道に関する測定 8.3 空港に関
する測定
- 第9章 衛生工学に関する測定 9.1 上水、工業用水
に関する測定 9.2 下水道に関する測定 9.3
水質汚濁に関する測定 9.4 大気汚染に関す
る測定

A 5判 422ページ上製

■定 価 2000 円□

□会員特価 1800 円■

<送料は 110円です>

土木学会測定法編集小委員会

委員長 高田 孝信

委員 伊吹山四郎 奥田 稔

久保慶三郎 合田 良実

佐藤 裕 高橋 彦治

谷口 敏雄 服部昌太郎

樋口 芳朗

委員兼 柏谷 衛 土屋 昭彦

幹事 中村 英夫 林 正夫

山本 稔 渡辺 隆

<申込方法>

代金に送料を添え前金でお
申込み下さい。まとまった
お申込みは送料が安くなり
ますのでご相談ください。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828

取引銀行□第一銀行八重洲口

支店・四谷支店/住友銀行麹

町支店/三菱銀行四谷支店/

富士銀行四谷支店

 土木学会

第15回海岸工学講演会講演集 ● B 5・372頁・3 500円(〒110円)

1. 風波におよぼす油膜の効果に関する実験〈日野・片岡・金子〉
2. 有限振幅波のshoalingについて(2)〈岩垣・酒井〉
3. 表面波による振動流境界層に関する実験的研究〈堀川・渡辺〉
4. 浅海重複波による質量輸送〈野田・川嶋〉
5. 砕波による水理特性〈中村・白石・佐々木〉
6. 砕波帯の波の研究(1)―観測法および例―〈井島・松尾〉
7. 海岸構造物不連続部の波高分布について(3)〈三井・川崎〉
8. 造波水路における波浪実験の二, 三の問題点について〈合田〉
9. 博多湾の風と波―低風速時の一例―〈光易〉
10. 中予海岸における波の推算と問題点〈浜口〉
11. 大瀨海岸における波浪推算の一例〈柿沼・石田・門司〉
12. 記録にもとづく海岸波浪の非線型性の解析〈柿沼・石田・門司〉
13. 防波堤の設計波浪に関する二, 三の考察〈尾崎・川上〉
14. ピアソン型分布による海の波〈久宝・竹沢・天竺〉
15. 不規則な波の入射および反射エネルギー スペクトルの測定法について〈鹿島〉
16. 波動による球の振動〈椎貝・河野〉
17. パイルに働く波力のスペクトルの理論―流れと波の共存する場合―〈日野〉
18. 低基混成堤に働く波圧〈永井・大坪〉
19. 波と流れによる砂の移動について〈中村・白石・佐々木・伊藤〉
20. 波による砂漣のスペクトルについての実験〈日野・福岡・古沢〉
21. 沿岸流速に関する二, 三の考察〈堀川・佐々木〉
22. 堤防前面の海浜変形に関する一考察〈細井・荒川〉
23. 海岸侵食と海水準変動〈高〉
24. 海蝕崖の侵食に関する実験的研究〈堀川・砂村〉
25. 皆生海岸の侵食について〈馬場・河村・成石〉
26. 鹿島港防波堤延長工事に伴う海底地形の変化について〈佐藤・田中・入江〉
27. 離岸堤工法について〈豊島〉
28. 海中浮泥の分布と潟面への影響について〈満田〉
29. 密度流の問題(3)〈浜田〉
30. 河口における塩水と淡水の混合〈福島・八畝・高橋・大谷〉
31. 河口の流れの構造(1)〈柏村・吉田〉
32. 河口閉塞にともなう河道内水位の変化について―河口閉塞機構に関する基礎的研究; 第3報―〈楳木〉
33. 深層取水の流れへの考察(II)〈大西・日野〉
34. 有限振幅の定常長波〈首藤〉
35. 異常潮位に関する統計的考察〈村木・鎌田〉
36. 河川潮汐の研究(1)〈宇野木〉
37. L字形湾の振動特性について(2)〈堀川・首藤・西村〉
38. 十勝沖地震津波調査報告〈堀口・横田〉
39. 海岸における鋼構造物の防食について(2)〈向江脇・沢村・谷・前田〉
40. 不規則波に対する護岸の期待越波流量について〈合田・竹田〉
41. 海岸堤防の越波の飛散(水平)分布について―のり勾配の影響―〈高田〉
42. 海岸堤防の越波について〈富永・佐久間〉
43. 海岸堤防の越波実験における縮尺効果について〈岩垣・井上・金田〉
44. 浮防波堤の模型実験〈久宝・大橋・牧野〉
45. 透過性鋼管防波堤とその基部洗掘〈林・服部〉
46. 工業用水の取放水問題〈和田・片野〉
47. 海岸に放出する水力発電所放水路への海水侵入について〈中村〉
48. 淡水湖における淡水層中への塩分鉛直拡散〈南・福岡〉
49. 火力または原子力発電所より放出された温噴流の湾内拡散〈林・首藤・川上〉
50. 湾内における物質の拡散―東京湾の場合―〈堀口・石塚・横田〉
51. 水理模型実験による廃水拡散の研究(1)〈江村・鬼塚・深尾・山口〉
52. Water Curtainによる波浪の減衰に関する実験的研究―鉛直上向き噴流列の応用研究―〈室田・村岡・中山〉
53. 潜堤による風波の減衰機構について〈堀川・小森〉
54. 透過性構造物の減勢機構に関する実験的研究〈久保・井田〉
55. 水路を遡上する波の減勢工に関する二, 三の考察〈千秋・藤本・島田〉
56. 合掌ブロックの特性について〈永井・大坪・遠藤〉
57. 二重カーテン壁消波工の消波効果について〈加藤・乃万〉

◆バックナンバーあり. 第14回 2 500円・第13回 2 200円・第12回 1 500円◆